



2017年4月25日

報道関係者各位

慶應義塾大学

ペンシルベニア州立大学教授 ニール・ウォレス氏に慶應義塾大学名誉博士の称号を授与

慶應義塾大学は、ニール・ウォレス(Neil Wallace)氏に対し、1980年代に世界を席巻したマクロ経済学の新しい潮流を主導的に引き起こした功績や貨幣理論における貢献を高く評価し、慶應義塾大学名誉博士の称号を授与することになりました。5月16日(火)、名誉博士称号授与式と同氏による福澤諭吉記念経済学特別講義を開催いたしますので、ぜひご取材をよろしくお願いいたします。

1. 名誉博士称号授与式について

日時：5月16日(火) 13:00～13:40 (12:50までにご入場下さい)
会場：三田演説館(慶應義塾大学 三田キャンパス 東京都港区三田2-15-45)
交通アクセス <https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>
言語：英語(通訳なし)

2. 福澤諭吉記念経済学特別講義について

日時：5月16日(火) 14:30～15:30
会場：慶應義塾大学 北館ホール(慶應義塾大学 三田キャンパス 同上)
言語：英語(日本語への同時通訳あり)

3. ニール・ウォレス(Neil Wallace)氏について

ニール・ウォレス氏は、コロンビア大学を卒業後、1964年シカゴ大学にて経済学博士号(Ph.D.)を取得しました。その後、ミネソタ大学、マイアミ大学で教鞭を執り、1997年よりペンシルベニア州立大学教授を務めています。また、1981年より米国計量経済学会、2005年より米国芸術科学アカデミー、2012年より米国経済学会の終身特別会員に選出されています。

同氏は、ミネソタ大学の同僚であったサーチェント教授(2011年ノーベル経済学賞受賞)、プレスコット教授(2004年ノーベル経済学賞受賞)、シムズ教授(2011年ノーベル経済学賞受賞)などと共に、人々の合理的な期待形成を想定したミクロ経済学的な基礎を持つ厳密なマクロ理論モデルを構築しました。これは、合理的期待形成学派、またはミネソタ学派として知られています。

また、同氏の貨幣理論における貢献は多岐に渡っており、貨幣を本源的に価値のないものと捉え、どのようなメカニズムにおいて貨幣が市場経済の中で価値を持って流通するかという問題に対し、世代重複モデルやサーチモデルの枠組みを用いて様々な有意義な結果を導出しました。これらの研究は、モデル構築において厳密に貨幣を定式化して貨幣政策の含意を分析する新しいマクロ経済学の潮流を引き起こしたと言えます。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、教育部、国際部等に送信しております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室(村上) TEL: 03-5427-1541 FAX: 03-5441-7640

Email: m-koho@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/ja/>